

第41回未来教室 杉並区立杉並第十小学校

1. 学校名 杉並区立杉並第十小学校
校長 吉井恵子
2. 住所 杉並区和田3-55-49
03-3313-1364
3. 開催日時 平成25年9月9日(月)
3・4時間目(10:45~12:20)
4. 実施学年 5年生 2クラス(各26名) クラス毎に実施
5. 授業内容 キャリア教育
「パナソニック エコ・モノ語(がたり)」
「ヤマト運輸ってどんな会社?」
6. 協力企業 パナソニック株式会社
(講師) ブランドコミュニケーション本部 宣伝・スポンサーシップグループ
コーポレートアド推進室 次世代推進担当 主事 高橋文子様

ヤマト運輸株式会社
埼京主管支店 サービスセンター長 山崎秀勝様

当日の様子



杉並区立杉並第十小学校「未来教室」参観記

おやじ日本 学校と企業との連携担当 池田利美

9月9日（月）、杉並第十小学校5年生の「未来教室」を参観してきました。

キャリア教育として、パナソニック㈱の高橋文子さんの「エコ・モノ語（がたり）」、モノづくりを支える人が、環境のためにどんな工夫をしているのかという授業です。

「電気をたくさん使ってしまう電器製品は？」の質問に、冷蔵庫、照明、テレビ、エアコンと、ベスト4がすらすらと出てきました。

メーカーとしては、便利な生活を支えながらも、電気の使用量は減らしたいという思いで、様々な取り組みを行っていることがよくわかりました。

省エネタイプの冷蔵庫は、'90年比で消費電力が60%も少なくなっているとのこと。

高橋さんご自身は、広報の仕事で、社内外の多くの人に会社のことを伝えるという、正に会社の顔としての仕事だそうです。

オリンピックのスポンサーに関わる仕事も担当されており、その中で国や文化、習慣の違いを考慮してポスターを作るなど、仕事においては一人ひとりが様々な工夫をしていることもわかりました。

会社の仕事の話聞くのはほとんど初めてだったと思いますが、「働くということ」を少しは身近に感じられたのではないのでしょうか。

杉並区立杉並第十小学校未来教室参観記

おやじ日本未来教室担当 高島信義

今日の未来教室では、5年生の児童がヤマト運輸株式会社サービスセンター長、山崎秀勝さんから、同社に関する話を聴きました。

ヤマト運輸の見慣れた「クロネコ」マークのトラックが映し出され、子どもたちの授業への興味は一気に高まりました。宅急便創業初日にわずか2個だった配送荷物が今では400万個になったこと、ヤマト運輸を支えているトラック運転手が果物等の販売も行う「セールスドライバー」として活躍していること、社会貢献活動として「見回り隊」の事業を行っていること、東日本大震災直後に素早く救援物資を送る活動をしたこと等の話があり、社員一人ひとりが社会にいかに関与するかを考えながら毎日の仕事をしていることを学びました。子どもたちに「働くこと」の意味が届いたと思います。特に、ドライバーの実体験をまとめた社内研修用DVDは、「社員としての自覚をもって意欲的に働いている」姿、「私たちは人と人との助け合いの中で仕事をしています」という言葉、心温まる「母に日の出来事」など、働く大人の責任の重さと働く喜びを、子ども心にもしっかりと訴えるものでした。

一企業の案内ではありましたが、子どもたちは、大人の働く姿を垣間見ることができたと思います。担任の先生から、今日の授業は、自分探し、職業の調査、自分の未来新聞の端緒となる時間とお聞きしました。今後の学習が楽しみです。